

16春闘勝利に向けて②

非正規労働者の賃上げ闘争を！

時代の転換に立ち向かい、生活と平和を守る16春闘へ

16けんり春闘全国実行委員会が発足

安倍政権と財界・経団連は一体となって「海外で戦争をする国」、「世界で一番企業が活動しやすい国」へと突き進んでいる。2014年末、衆議院選挙に勝利した安倍自民党は公明党と連立を組み、国会内議席の圧倒的多数を占めて戦後レジームの破壊に突き進んでいる。憲法を柱に平和と民主主義、産業によって労働者市民の幸福を求める国づくりから、戦後70年を経て、安倍首相に率いられて自民・公明両党は、日本を独裁と戦争する国、労働者を使い捨て、貧困と格差社会へと転換させようとしている。決して許してはならない。平和と民主主義、安定した雇用と生活できる賃金は人間らしく生きる為の対的な条件である。16春闘はこの全てを守り、未来に向けて確固としたものとする闘いの広場である。

80余名が参加して「闘う春闘」を意思統一

12月12日(土)、16けんり春闘全国実行委員会は総会を開催して16春闘に臨む要求と闘う体制を決定した。会場の交通ビル地下大会議室には80数名の仲間が参加した。国谷（全水道東水労中執）氏の司会で開会した発足総会は15けんり春闘で共同代表を務めた金澤全労協議長から主催者挨拶を受け、16春闘の課題と目標、組織体制の確立について中岡事務局長から提案を受け、全員一致で確認し、闘いに臨む決意を新たにした。

今総会では特別報告として、総がかり行動など戦争法廃止運動を中心に取り組んでいる平和フォーラムの藤本事務局長、沖縄辺野古新基地建設阻止に全力をあげている大仲・沖縄反戦地主会関東ブロック共同代表から報告を受けた。藤本氏からは安倍政権の戦争法の強行、原発再稼働、沖縄辺野古新基地建設強行に抗議して国会を取り囲んだ多くの労働者市民、学者、若者、女性の闘いを引き継ぎ、戦争法廃止2000万統一署名を成功させ、7月参議院選挙で「市民連合」による野党共闘や落選運動など様々な闘いを大きく寄せ集めて安倍政権を打倒することが呼びかけられた。大仲さんは沖縄現地・辺野古の海とキャンプシュワブゲート前で連日連夜闘いを続けるオバア、オジイ、沖縄各地から支援に集まる労働者・

市民の様子を紹介すると共に、安倍政権によって拡大する沖縄差別を糾弾して「翁長知事の覚悟に本土でも答えよう」と訴え、大きな拍手で確認された。

「ストライキで闘う春闘が本筋」と激励・・・鹿田氏

16けんり春闘実行委員会の発足を確認した総会の後、学習集会には労働ジャーナリストの鹿田勝一氏の「曲がり角に立つ日本社会（戦争と格差社会）と労働組合」と題する講演が行われた。鹿田氏は小泉政権による新自由主義政策の導入以降、労働者の生活は厳しさを増し、いま、安倍政権によって富は一部の企業と富裕層に集中し、非正規労働者、中小企業労働者の貧困化は固定化されようとしている。憲法も破壊されて戦争国家にされようとしている状況に労働組合の闘いが見えていないと指摘された。労働戦線再編以降、ストライキは激減しており官製春闘とさえ言われる状況にもなっている。生活を守り、平和を守り民主主義を守る闘いに労働組合の活躍は不可欠であること。夏の戦争法を巡る闘いをしっかり引き継ぎ、労働組合はストライキで闘うことが求められていると激励を受けた。

講演を受けて、16けんり春闘に参加する各労組、地方組織から闘いの決意が述べられた。坂本（全統一）、持橋（全造船関東地協）、諸見（全港湾）、唐澤（国労）、寺嶋（全水道東水労）、渡辺（全国一般全国協）、上平（郵政ユニオン）、染（東京清掃労組）、柚木（全労協女性委員会）、鈴木（JAL原告団）、垣沼（大阪ユニオンネット）各氏から現場報告と闘いの決意が表明された。最後に16けんり春闘共同代表を務める田宮・中小民間労組代表からまとめと行動提起が行われ、宇佐見（全造船関東地協）さんの音頭で団結ガンバロウを参加者全員で三唱し集会を終了した。年明け早々、1月4日(月)には通常国会が開会する。安倍政権を打倒し、労働者の生活と権利回復の闘いが始まる。

